

厚生文教委員会行政視察報告書
(奈良県大和郡山市)

厚生文教委員会
委員長 江崎 貴大

視察名： 弥富市議会厚生文教委員会行政視察
日時： 令和5年10月3日(火)
視察先： 大和郡山市
視察項目： 特産品(金魚)を活かした観光施策と観光協会ホームページの活用について
視察参加者： 議会議員 7名 江崎貴大、堀岡敏喜、平野広行、那須英二
鈴木みどり、加藤克之、加藤明由
執行部職員 1名
事務局 1名

奈良県大和郡山市の概要

昭和29年1月1日に、矢田村、昭和村、平和村、治道村が郡山町へ編入し、大和郡山市が誕生した。昭和32年には片桐町を編入している。

大和郡山市は奈良県北西部に位置し、東西に約9km、南北に約7kmにわたり広がっており、面積は42,69㎡です。奈良市、天理市、生駒市、斑鳩町、安堵町、川西町と隣接している。

【本庁所在地：東経135度46分57秒、北緯34度38分57秒、海拔54m】

人口(令和5年7月31日現在)

総人口	男	女	世帯数
83,394人	39,423人	43,971人	39,143世帯

大和郡山市議会の概要

議員定数 20人

常任委員会名等	定数	所管事項
総務常任委員会	6人	総務部、会計室、議会、監査委員、選挙管理委員会、公平委員会及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の常任委員会の所管に属しない事項

産業厚生常任委員会	6人	市民生活部、産業振興部及び農業委員会の所管に属する事項
教育福祉常任委員会	6人	教育委員会、福祉部及びすこやか健康づくり部の所管に属する事項
建設水道常任委員会	6人	都市建設部及び上下水道部の所管に属する事項
議会運営委員会	8人	
清浄会館再整備委員会 特別委員会	9人	

大和郡山市視察目的

大和郡山市は、豊臣秀吉の弟、秀長が構築した郡山城や、約300年の歴史を持つ金魚の生産地として広く全国に知られている。

金魚すくいを競技として位置付けた全国金魚すくい選手権大会の開催や、金魚をモチーフとした金魚スポットの街なかへの配置など、観光客が楽しみながら周遊できる取り組みを行っている。また、観光協会のホームページも開設しており、金魚のPRの一役を担っている。

本市も金魚の生産地であるが、まだまだ観光PRの余地があると感じており、観光資源が少ない中で観光事業の推進を図るには、特産品である金魚を活用していくのが最善の施策であると考えられる。そんな中で弥富金魚の発祥の地であり、金魚を活用した観光施策を全国的に展開している大和郡山市を参考にし、さらには相互交流のきっかけにしたい。また、本市も今年度から観光協会のホームページ開設を予定しており、活用に向けての参考にしたい。

大和郡山市視察概要

○特産品（金魚）を活かした観光施策について

金魚の養殖池面積、出荷額、生産品種は本市が全国一であるが生産量においては大和郡山市が全国一である。本市は観賞用の金魚生産に対し、大和郡山市は金魚すくいを中心とした金魚すくい用の金魚（小赤）の生産を目指していることに起因する。

おまつりなどでなじみの金魚すくいを競技として位置付けた「全国金魚すくい選手権大会」を開催している。1995年に第1回が開催され、全国からの参加者を呼び込んだ。その後、会を重ねるごとに参加人数が増え、海外からのエントリーもあり、大和郡山市の夏の風物詩になっている。

そして、毎年「全国金魚すくい選手権大会」を開催している8月の第3日曜日を「金魚すくいの日」と定め、「金魚すくい」を全国津々浦々まで浸透させ、「金魚のまち大和郡山」を広く内外にPRしている。

認定予選大会を全国各地で行っており、交流人口の増加も図っている。その際、営利を目的としないイベント・団体であれば、金魚すくいの道具を無料レンタルしたり、金魚すくい道場の門下生を派遣し、運営の手伝いをしたりすることもある。

金魚についての歴史、飼い方を始め、あらゆる知識を有したボランティアである「金魚マイスター」を育成し、金魚を飼う文化を市内外に広めている。全国金魚すくい選手権大会の審判ボランティアもしている。

駅前のやなぎまち商店街では、「金魚ストリート」と銘打ち、金魚の魅力を活かした取り組みを行っている。例えば、現在では、「まちなか金魚水族館」として、各店頭で金魚を飼育していたり、御朱印帳を模した「御金魚帖」を製作し、お店のイメージの金魚はんこを集めて、各店舗に寄ってもらう取り組みをしたりしている。これらの取り組みにより、2021年には、はばたく商店街 30 選に選ばれている。

○観光協会ホームページについて

一般社団法人大和郡山市観光協会は、大和郡山市および周辺地区の観光事業の振興を図り、産業経済および文化発展に寄与することを目的としている。また、観光資源・観光事業を広くPRするために、大和郡山市や大和郡山市商工会など様々な団体等と連携し、市の知名度の向上を図るとともに観光客の誘致を行い、地域の活性化に努めている。その中で、観光協会独自のホームページも開設している。さらに、大和郡山市内外で行われる様々な観光行事、各種イベントを主催・共催している。

観光協会のホームページは、見ていただいた方が求めている情報や観光情報を、分かりやすくお伝えできるようなホームページ作りを心掛けている。しかしながら、掲載できる情報にも限度があり、どのような掲載方法が見やすさになるのか、課題もまだまだあると考えている。

また、会員に入会いただいた企業・店舗の情報をホームページへ掲載する際には、オススメ商品、営業時間、定休日等の詳細情報を掲載するようにしている。こうした情報については最新の情報が求められるが、何かしら変更が生じた際、店舗からの連絡が無く、観光客に指摘されて初めて変更を知るといったケースがこれまで度々あった(ここ数年は、新型コロナウイルスの流行に伴い、営業時間の短縮や定休日を変更された店舗が多く見られた。)

観光に際しては、訪問先の観光協会のホームページを参考に計画を立てる方も多くいるので、常にまちの最新情報を提供するためのホームページ管理には日々苦心している。

大和郡山市視察所感

城下町として長い歴史のある大和郡山市には、金魚の養殖という産業としての側面とは別に、市民に対して文化や街のシンボルとして、シビックプライドが深く根付いている印象を受ける。ここが弥富市との違いであると思う。一般に興味のない人でも「金魚」について連想するのが「金魚鉢」や夜店などで見る「金魚すくい」だろう。多くの人々が認知し共有できる項目に対して、まちのPR事業に取り入れられたのが「全国金魚すくい選手権大会」である。「全国金魚すくい選手権大会」という大きなイベントをきっかけに、多くの来訪者を呼び込んでいる仕掛けは、先見の明があると感じた。また、そのイベントを

28年続けてきたことに価値があり、支えてこられているボランティアを中心とする市民や協賛する企業などの協力が不可欠であり、それが大和郡山市の文化になっているのだと感じた。携わるボランティアが300~400人くらいと伺い、本市ではとても考えられない人数だ。ボランティアの育成は本市にとって課題の一つである。多くの人々が認知し共有できる点に着目し、事業化し、継続しているところは大いに参考にしなければならない。

ただ一方で、金魚すくい大会やイベントの時にしか人が寄ってこないという課題も抱えており、金魚のまちとしてPRする方法を模索されていたり、商店街や商業観光施設へと人が流れる導線作りに苦勞されていたりする様子もうかがえた。イベント時には、多くの来客があるが、イベントがない時は少ないため宿泊施設は経営が難しく、現状では2軒しかない。そのため、イベント時には奈良市内の宿泊施設などを利用する方も多い。イベント以外にも人を呼び込む工夫がなければ、発展や、維持していただけても困難なことを改めて感じた。また、金魚農家の減少からくる金魚産業の衰退の危機意識も感じられた。観光施策とともに、将来にわたり魅力がある金魚生産者の育成も必要であると感じられた。

本市としては、今から大和郡山市と同様の金魚すくい大会を行っても、二番煎じでしかないことから、認定予選会や特別予選会などを大和郡山市と協力して開催して、金魚を起点とした交流人口の増加や金魚文化の拡大を図ったり、近隣市外からの人の呼び込みをしたりすることができるのではないかと考える。また、大和郡山市では小赤をメインで養殖していることから金魚すくいと親和性が高いが、弥富では多くの品種を扱っていることや観賞魚の養殖が盛んであることから、多品種の金魚の観賞などこれらの特徴を活かした誘発を考えていく必要があると考える。弥富駅前を利用した多品種金魚の紹介、駅前への個性的な金魚掲示板、それぞれの金魚を紹介する本市で生産する30種類の金魚のイルミネーションオブジェ、駅から市役所までの歩道への市民アイデアによる金魚PR方法等、充実したスタッフと市民が協働する金魚ロードの設置等アイデアを出していかなければと思う。

また、自治会からの補助で商店街の各店舗が金魚PRに向け独自のアイデアを出し取り組んでいる姿が目についた。観光協会では様々なイベントに協賛、協力をし、金魚PRを欠かさない。「金魚のまち」と聞きなれた言葉だが、まちぐるみでの意識は全く違う。どこに行っても金魚がいる。市役所には各部屋のネームプレートや、トイレにも金魚が飾ってあった。金魚すくいに使うポイを使った加工品も面白く大いに参考となった。本市においても市民、民間との協働の取り組みが今後重要であり、これらをまとめる組織作りが必要であると思った。まちぐるみ、商店街ぐるみで金魚に対する自負心を持っているところを参考にし、本市においても金魚に対する自負心を持ち、一肌買ってくれるような人材の確保と育成をしていかなければ、大和郡山市のような大きなイベントは続けることができないと感じた。

そして情報発信のためのホームページ作りについては、観光や訪問の際に、観光協会のホームページを見られる方が多くいるとのことなので、見やすく必要な情報にアクセスできるような働きかけが必要であると感じた。本市では、観光協会のホームページがこの秋に開設したばかりである。まだまだ盛り込まなければいけないコンテンツがある状況で、店舗や企業との細やかな情報共有や、最新情報の把握の必要性が感じられた。

また、大和郡山市の全国金魚すくい選手権大会の開催時期には、全国放送のニュースで報

道されたり、特集が組まれたりすることから、弥富市をさらにPRするためには、メディアからの声掛けがしやすいような仕組み作りも必要であると感じた。

観光振興の目的は、観光地や観光資源の魅力を高め多くの集客を得ることで、地場産業の活性化や増収、現地の雇用機会を増やすこと。また、観光客の増加により、地域の交流や文化交流が促進され、地域の活性化につなげること、などである。同時に観光資源や文化遺産の保護・活用により、地域のアイデンティティや誇りを強化する効果も期待できる。そういう意味からも、弥富市が「金魚の三大生産地」としての「誇り」と、『金魚のまち』としての「こだわり」を一層深め、市民と共有することが重要と感じる。

